

豊岡市 - 合併前市町の歴史

旧城崎町

平成17年4月1日、1市5町(豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町)が合併し、豊岡市が誕生しました。

新庁舎の完成に合わせ、合併までの各市町の歴史を振り返ってみましょう。

《問合せ》城崎支所 ☎32-0001

周辺町村と幾多の協議を進めた結果、昭和30年2月1日に城崎町と内川村が合併し、新「城崎町」が誕生しました。

年月	主な出来事
昭和31年10月	城崎大橋完成(東西地区が結ばれる)
昭和35年1月	但馬で唯一の町営ガス事業の供給開始
昭和36年10月	飯谷峠開通(城崎町飯谷と畑上を結ぶ)
昭和38年5月	城崎温泉ロープウェイ完成
昭和39年12月	「結和橋」完成。吊橋から鋼製橋へ
昭和45年3月	町議会で暴力追放決議文を採択(暴力団追放運動)
昭和47年4月	城崎町消防署新設。町単独では県内で初めての常設消防署
昭和49年10月	城崎排水機場が完成
昭和58年12月	県立城崎大会議館完成(千人規模の会議が可能)
昭和61年7月	県道竹野久美浜線(鑄物師戻峠)開通
昭和61年11月	鴻の湯庭園風呂オープン(温泉ブームで大人気)
平成元年7月	城崎小学校増改築工事完成
平成4年6月	円山川城崎漕艇場B級公認コース認定
平成8年2月	城崎中学校増改築工事完成
平成13年6月	町道二見森津線開通
平成15年12月	城崎町役場新庁舎(現支所)完成
平成16年4月	城崎ポートセンター竣工
平成17年2月	新城崎町50周年記念式典

ボートのまち

円山川城崎漕艇場が、平成4年に日本ボート協会公認のB級コースとなりました。豊かな水量、緩やかな流れ、広い川幅、千メートル以上の直線は、コースに最適と評価されました。

平成16年には、コースの右岸側にボートセンターを整備し、ボートコースとしての機能を充実しました。全日本社会人実業団選手権や全国市町村レガッタ、全国マスターズレガッタ、中学校・高等学校の大会などの多くが開催されています。



▲チームワークが大切なナックルフォア艇

外湯めぐりの温泉のまち

城崎温泉では、「外湯めぐり」が人気です。それぞれの伝説や由来から名付けられた七つの外湯を、浴衣を着て下駄を「カランコロン」と鳴らしながら巡る姿は、城崎温泉ならではの情緒です。



▲一の湯

文学のまち

志賀直哉は、大正2年に、療養のために約3週間城崎温泉に滞在しました。その間、3匹の小動物の死を通して自分の生と死について考え、「城の崎にて」を執筆しました。「城の崎にて」は、高等学校の国語の教科書に掲載され、城崎の名を全国的なものとなりました。城崎文芸館の前には、日本で唯一の志賀直哉直筆の文学碑が建てられています。温泉街には、島崎藤村、有島武郎、柴野栗山、与謝野晶子、司馬遼太郎など多くの文学碑があります。



▲志賀直哉直筆文学碑

林道来日線完成

今は自動車で気軽に来日山頂上まで登れます。そのもとになったのが来日山の林道基盤の整備であり、林道来日線は昭和58年度に全線完成しました(全長5.8キロメートル)。来日山は城崎地域では一番高い山で、山頂からは日本海(久美浜から竹野海岸)、円山川、豊岡盆地が眼下に展開します。ことに晩秋には、足元一面を白一色に閉じ込める、生き物のような雲海を見ることができます。



▲来日山 雲海

電線地中化

平成16年、城崎温泉の駅通りの電線が地中化されました。城崎温泉街は、兵庫県の景観形成地区に指定されています。「和」の風情を醸し出す木造2階建てや3階建ての旅館、店舗などの連続した街並みが魅力の一つです。電線の地中化で、電柱や上空にあった電線がなくなり、街並みや山の稜線の視界が開け、景観と自然との調和が向上しました。



▲駅通り電線地中化

【表紙写真】 とよおか作業所「愛・とーぶ」で、施設利用者や豊岡こうのとりのライオンズクラブ会員らが参加し、餅つき交流会が開催されました。利用者が交代で餅をつき、きな粉餅やあん餅、よもぎ餅にして食べたあと、豆まきや獅子舞などで楽しみました。